



—折にふれて—

## 世界の平和と

### 人類の幸福のために

立山町立雄山中学校校長

高瀬 知郎

二〇二二年二月二十四日、国際社会が恐れていたことが現実となった。連日のように報道される現地からの映像は、目を覆うばかりだ。高層ビルに着弾し爆発するミサイル、逃げ惑う無防備な避難民を襲う砲撃、激しい砲火によって廃墟と化した市街地。あの瓦礫の下で傷つき息絶えようとしている人がいるのだ。二つの世界大戦による悲惨な経験によって、戦争の愚かさは世界で共有されたはずなのに。

この現実の前に、私たちはどうあればよいのだろう。教科書にある歴史ではなく、二十一世紀の今、起きているこの事実を、教室で話題にせず目を背けていてよいのだろうか。国語科や社会科、総合的な学習の時間の平和学習を通して、あれほど時間をかけて考え辿り着いた平和の尊さと、現実にかけていることとの空しいまでの乖離。核兵器の廃

絶や戦争反対を唱えながら、自国の安全のために軍備増強や兵器開発を進めているという矛盾。そして、なぜ人類は人を殺める道具である武器を手放すことができないのかという根本的な問い。今こそ、簡単には答えが出ない人類全体の問題を、大人も子供も一緒になって考え、真剣に議論するときなのではないだろうか。

今年度、数年ぶりに学校の教育目標について教職員と見直しを進めた。教育雑誌の特集テーマ「学校教育目標が言えますか」との問いを目にしたことがきっかけだ。目標の冒頭「社会の変化に対応」することは、コロナ禍や異常気象、IT環境のめまぐるしい変化等により日常化してしまった。また「生徒の育成」で締めくくる表現は指導者の目線であり、生徒と思いを共有する目標となりにくい。そこで、今年度の目標を「高い理想を掲げて未来を語り、自己を鍛え続ける雄中生」とした。既にスマホやタブレット等のICT機器は身近なものとなっている。大切なのは、それらを用いて「何を語り何を為すか」だ。社会の現実を見据えて、あるべき社会の姿を描き、共に語り合ってほしい。そして理想とする未来に貢献できる存在となるための弛まぬ努力を続けてほしい。世界の平和と人類の幸福のために、自分に何ができるだろう。一人の思いや行為はささやかでも、その小さな積み重ねが世界を変えていくのだ。